

アーカイブ Data Report

NO. 123

(2021年6月22日)

〒500-8813 岐阜県岐阜市明徳町10番地 杉山ビル5F

E-mail: shikaku@npo-nak.com URL: https://npo-nak.com

NPO 日本アーカイブ協会・岐阜女子大学*・沖縄女子短期大学・学習システム研究会

(*岐阜女子大学デジタルアーカイブ専攻・研究所, 沖縄サテライト校)

東日本大震災の記録 (2) —経験を記録して命を守る—

佐藤 正明 (NPO 法人 日本アーカイブ協会)

2011年に行った東日本大震災の被災状況を記録する過程で、地域の人々が過去の経験から命を守るための様々な工夫をしている様子が見られた。そこに災害を記録することの意義を見いだすことができる。

(1) 過去の津波被害を石碑に刻んで住民に喚起する取り組み

岩手県内には過去の津波災害の経験を後世に伝え、住民に警告を発している石碑が多く存在している。今回の調査では、岩手県宮古市重茂姉吉集落に建てられている「大津浪記念碑」を記録した。



大津浪記念碑

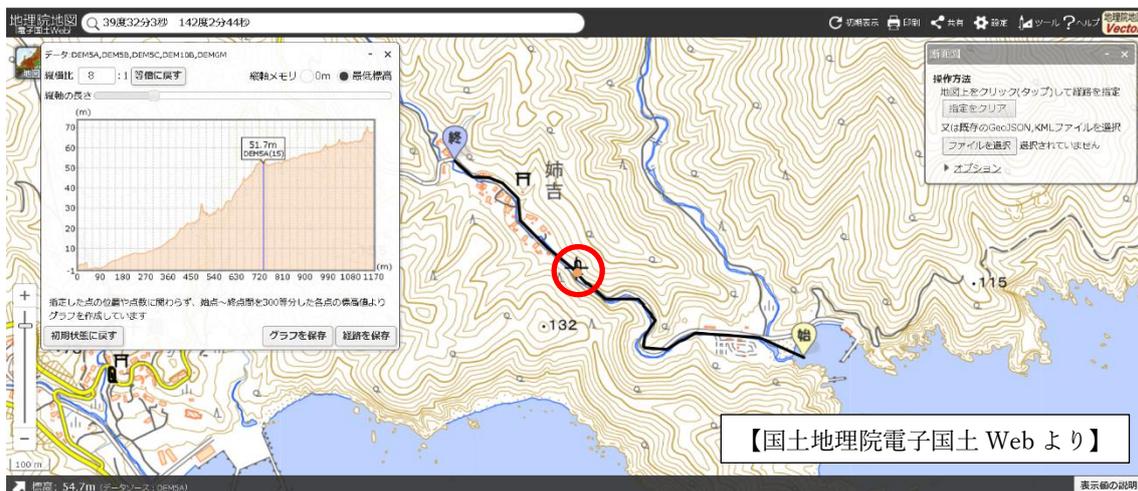
位置 39° 32' 3.0"N 142° 2' 44.0"E

記載内容

碑には右の言葉が刻まれている。今回もこの碑から道路に沿っておよそ50m位下がった所まで水が押し寄せてきた跡が残されていた。

高き住居は 兒孫の和樂 想へ惨禍の 大津浪 此處より下に 家を建てるな	明治廿九年にも 昭和八年も 津浪は此處まで来て 部落は全滅し生 存者僅かに前は二人 後に四人のみ幾歳 経るとも要小心あれ
--	--

注：明治29年(1896年)6月15日明治三陸大津波
昭和3年(1938年)3月3日昭和三陸津波



この石碑は集落から漁港につながる道沿いの、海拔がおよそ 58m の所に建てられている（地図の赤丸の箇所）。この場所より下方には家は建てられておらず、今回の津波でも被害に遭った人はなかったという。地図からわかるように、港の奥に押し寄せた海水は、道路沿いの細い川を遡上して部落近くに迫った。

(2) 越喜来小学校における津波に対する備えと対応の工夫

越喜来小学校は越喜来湾の一番奥に近い箇所で、海から 200 メートル、海拔数メートルの所にあった。ある市会議員の提案で、地震が発生する前年の 12 月に校舎の 2 階から高台の三陸駅に通じる道路に避難する非常通路が完成した。非常通路が作られる以前は、校舎からいったん運動場を経由して三陸駅方面に避難することになっていた。震災の数日前にも実際に避難に使われていた。



図①：校舎の 2 階から市道に直接避難できる非常通路

図②：非常通路から市道に出たあと左手に進み、標高が高い三陸駅方面に向かう。

図③：三陸駅のさらに後方には小高い山がある。

図④：内閣府の東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会第 7 回会合資料より抜粋

上記①～③の映像は、魚眼レンズを用いて撮影した映像を合成した、360° パノラマ映像から作成した。パノラマ映像を用いれば、任意の向き映像を視聴することができる。